

研究機関名：東北大学

受付番号： 2014-1-41			
研究課題名 頭頸部癌治療後消化管狭窄への内視鏡的バルーン拡張術の検討			
研究期間	西暦 2014 年	5 月（倫理委員会承認後）～	2015 年 4 月
対象材料 <input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 _____） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名 _____） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（診療録、内視鏡画像データ _____）			
上記材料の採取期間	西暦	2010 年 1 月～	2013 年 8 月
意義、目的 頭頸部癌に対しては、外科的治療、放射線療法、化学療法等を組み合わせた集学的治療が行われているが、治療後、高頻度に狭窄による嚥下障害（約 40%）に生じるとされており、それに対する対策が必要である。これまで、狭窄に対する拡張術としてブジー拡張や透視下バルーン拡張がこれまで一般的に施行されてきたが、近年内視鏡的バルーン拡張術が低侵襲かつ簡便であり主に施行されるようになってきた。今回の検討では、頭頸部癌術後の遊離空腸吻合部を含めた狭窄に対する内視鏡的バルーン拡張術の有効性、また偶発症等のリスクに関しての検証することを目的とする。			
方法 2010 年 1 月から 2013 年 8 月までに、頭頸部癌に対し手術もしくは CRT を施行後に当科で内視鏡的バルーン拡張術を施行した 19 例に関して、診療録、内視鏡画像データを使用して年齢・性別、原疾患、原疾患に対する治療、狭窄症状の程度・出現時期、狭窄の発生部位、拡張回数及び期間、最大拡張径、治療効果、偶発症、再狭窄の有無、経過観察期間などの臨床データを抽出し、解析する。具体的には EBD の有効率、再狭窄率、偶発症の発生率を算出し、治療成績に影響を及ぼす因子について検討する。上記の解析は、患者名を匿名化した後に行う。			
問い合わせ・苦情等の窓口 仙台市青葉区星陵町 1-1 東北大学病院消化器内科、飯島克則（電話 022-717-7171）			